

雌阿寒岳

1 概況(平成14年10月)

観測データに大きな変化はなく静穏に経過しました。1999年以降ポンマチネシリ96-1火口の熱的活動は低下する傾向が認められますが、引き続き高温状態を維持しています。また、時折地震活動が活発化することがあります。

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ96-1火口の噴煙高度は概ね火口上100~200m程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

3 地震活動の状況

地震の増加や火山性微動はありませんでした。地震回数は1日あたり0~4回と平常レベルで推移しました。

なお、雌阿寒岳の南約5km(徹別岳周辺)で、10月8日から地震活動が活発化していますが、雌阿寒岳の火山活動には直接影響しないと考えています。

月別地震・微動回数(B点)

平成13~14年	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
地震回数	56	18	21	39	204	17	11	20	32	25	34	21
微動回数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

GPS観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。

5 調査観測の結果

10月17日に調査観測を実施しました。ポンマチネシリ96-1火口底の噴気孔は引き続き高温を維持しています。

【ポンマチネシリ火口】

・96-1火口

噴気の色は白色で火口底の噴出口付近は透明~やや青味を帯びています。噴出の勢いは弱く噴気音も認められませんでした。赤外放射温度計*により北側火口縁から測定した最高温度は447(測定距離50m)で、今年6月(461)と同程度でした。

・赤沼火口

赤沼西方噴気孔は勢いが強く400m離れた山頂付近からも噴気音が確認できました。噴気の状態や周辺の変色域、地熱域の広がりに変化はありませんでした。

・その他の火口

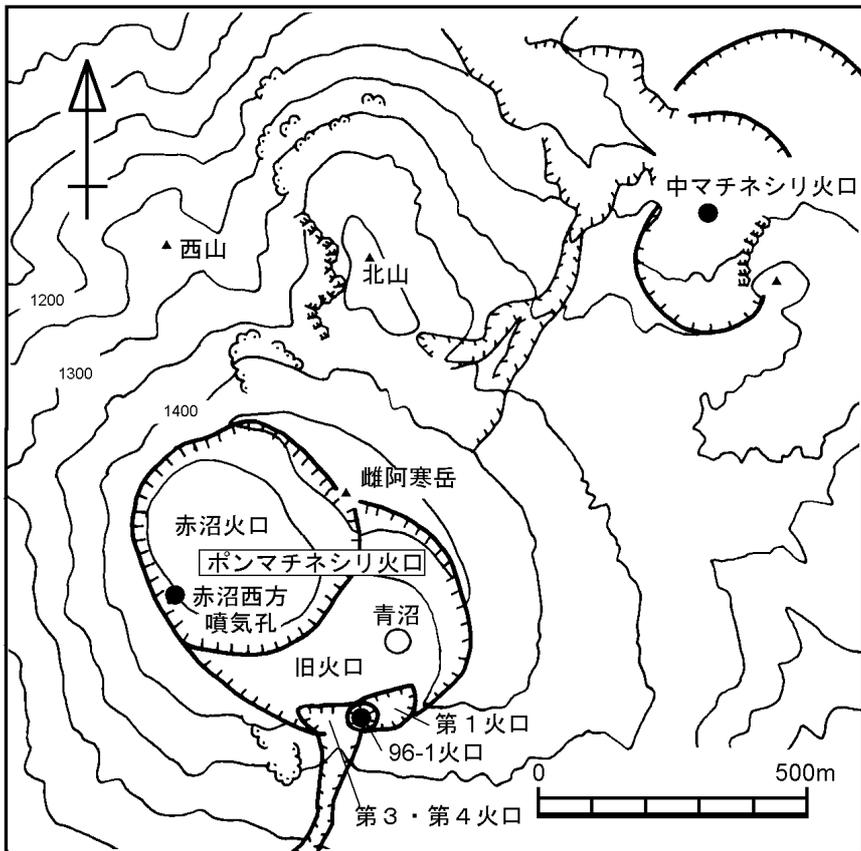
第1火口、第3火口、第4火口などでは弱い噴気活動と沸点程度の地熱活動が続いています。

【中マチネシリ火口】

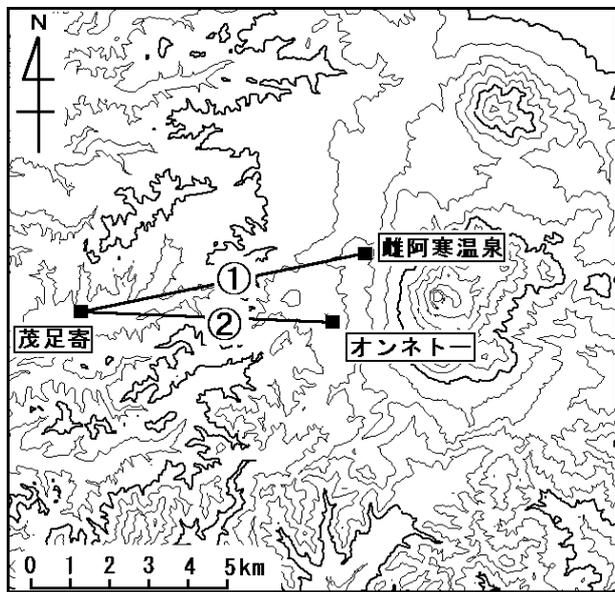
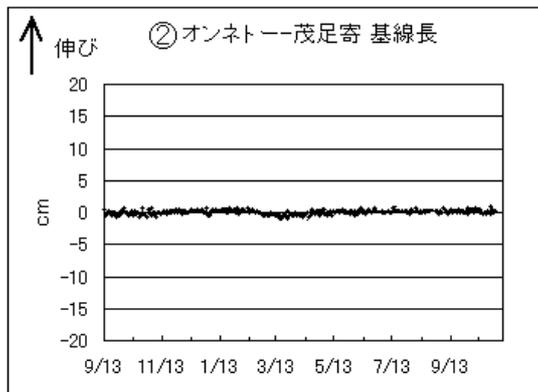
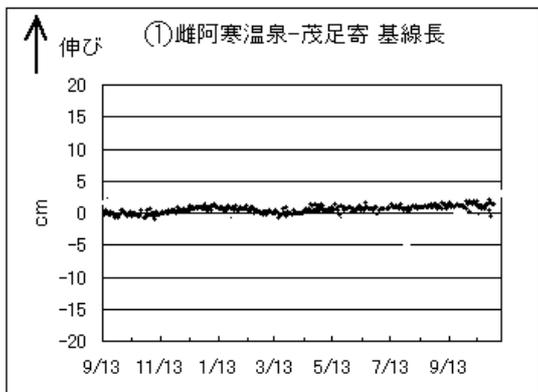
従来から特に変化はなく、活発な噴気孔や熱泥水の噴出などが認められました。

*赤外放射温度計

物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた所から温度を測定できるが、噴煙などではっきり対象が見えない場合や熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。

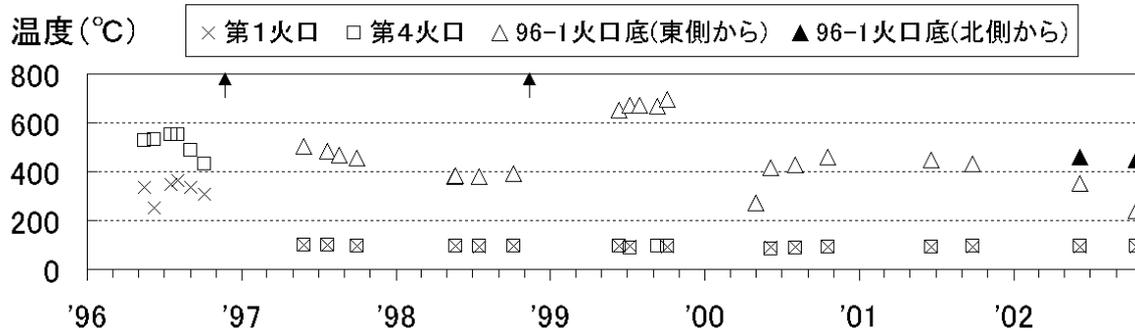


雌阿寒岳火口周辺図

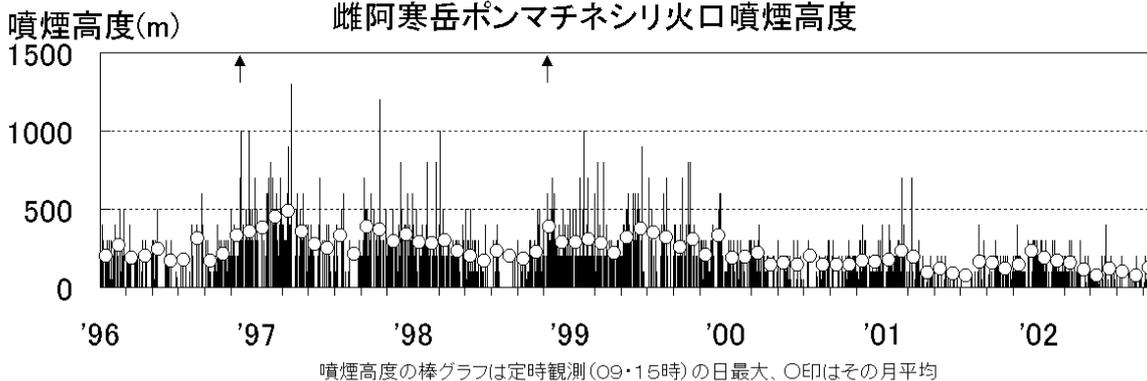


雌阿寒岳基線長変化(2001年9月13日~2002年10月31日)

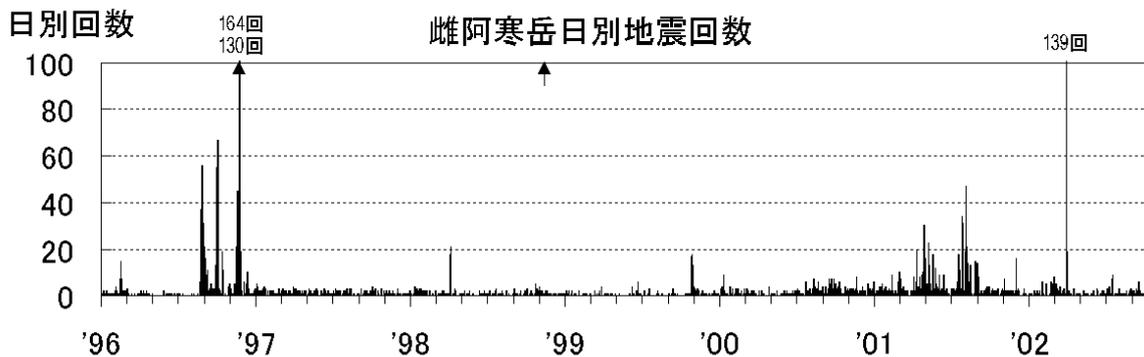
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



雌阿寒岳ポンマチネシリ火口噴煙高度



雌阿寒岳日別地震回数



雌阿寒岳火山活動経過図(1996年1月1日~2002年10月31日) 印は噴火